

タイトル：保育園から創る姫路の未来

本文：

現在、私は大学4年生で保育士を目指して勉強しています。保育士は一般的に人手不足で残業や持ち帰り仕事、季節の行事の準備など多忙の割に賃金が少ないという職業の一つです。一方で保育園はこれまでの児童を預かるだけの役割だけでなく、これからは地域貢献も含めた役割にしていかなければならないと感じています。

最近ではインターネットが普及し、人に教えてもらわなくても、だいたいのものは調べることができます。そのせいか、昔に比べて近所付き合い・人付き合いがほとんど減ってきたと思います。人付き合いが減ることは煩わしいことから避けることができますが、人と関わることによって得られる成長や人脈、また災害発生したときなど本当に困ったときに助け合える状況にありません。保育園では保護者への育児相談や保護者の意見交換会を開催しているだけでなく、これから親になる産前相談などを開催している保育園もあります。

インターネットで調べれば分かるようなことでも非常にたくさんの人が集まっていて、小さいながらも保護者のコミュニティができています。このようなコミュニティを地域でも広げていくことができれば、保育園の役割が重要になり、保育士のやりがいも増え、人手不足解消や給料の増加に繋がるかもしれません。実際に地域社会に根差した福祉サービスを展開しているところがあります。東京都北区・社会福祉法人東京都福祉事業協会は高齢者施設と保育所の複合施設を開設しました。高齢者と園児が多世代間の交流をすることで、高齢者は交流することが生きがいになり、核家族化が進んでいると言われていたのですが、高齢者と交流することで感性が豊かになったり、コミュニケーション能力の向上にも寄与していきます。このような複合型の施設を建設するには多額のお金がかかると思いますが、今既に多くの保育園や多くの高齢者施設が数多くあります。また、姫路市は他の都市と比べて自治会加入率が高く、自治会や老人会などが数多くあります。そのような団体と協力・連携していくことで、様々な地域課題を解決していけるような気がします。

国の社会保障費は約 35 兆円で、これから高齢者が増えていくとますます増えていくことが予想されます。私たちが高齢者になったときには年金は支払われないのではないかという報道もあります。生き生きとしたおじいちゃん・おばあちゃんが増えれば、社会保障費の抑制にもつながっていくのではないのでしょうか。また、地域で子供たちを育てる意識が高まれば、防犯の面での役に立ちます。地域の人と顔の見える付き合いをすることにより、子どもたちが誰かに誘拐されそうになったときや困っている時は助けを呼ぶことができるし、地震などの災害が起きても、安否確認がすぐにできて、必要なところに人員を回せることができます。青少年の犯罪件数が増えている中で、子どもたちの成長にとっても意義があると思います。さらに、このような協力や連携は特別にお金がかかるものではありません。仕組みややり方を少し変えるだけで、このような win-win の関係が創れると思います。

現場の保育士にとっては負担が増えるかもしれませんが、おじいちゃん・おばあちゃんも保育に携わったり、このような意義のあることに対して、私達若者がやりがいを感じ、YouTuber を超えて人気の職業ランキングの上位に保育士が入ると人手不足も解消されると思います。

このような取り組みは SDGs の「すべての人に健康と福祉を」や「住み続けられるまちづくりを」などにも大きく貢献していきます。

私はまだ学生で何の力もありませんし、何の実績もありません。しかし、与えられた仕事を一生懸命取り組み、周りからの信頼されて、あなたの言うことなら応援しようと言ってくれる人をたくさん作り、これまで自治会等が担っていた地域のコミュニティを保育園と連携して、新しいコミュニティを活性化させていきたいと思っています。